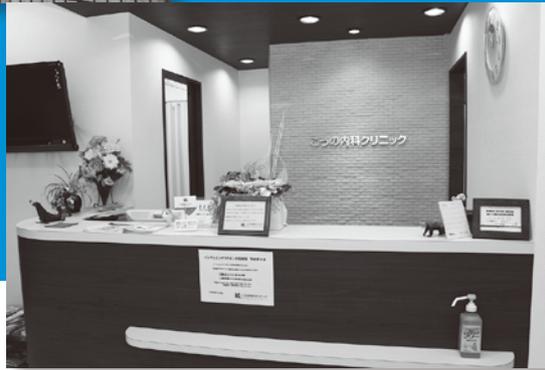


# 連携の良さを考えた 医療機器と電子カルテの選択

## —— ころの内科クリニック



### ■DATA

住 所：〒140-0011  
東京都品川区東大井5-11-2  
連絡先：03-6712-8750  
診療科：内科、消化器内科、小児科、  
胃・大腸内視鏡検査 応需

ころの内科クリニックは、電子カルテや最新の医療機器を導入し、今年4月に品川区東大井に開院した。開院に際して導入した電子カルテのメリットや機能、そして自身の経験から導入する際に気をつけるべきアドバイスなどを中心に院長である河野通康氏にお話を伺った。



### ■河野通康氏プロフィール

平成2年 東邦大学医学部卒業  
平成4年 東京慈恵会医科大学病院にて  
研修後、第3内科に入局  
平成6年 早期胃癌検診協会中央診療所  
医員  
平成12年 東京慈恵会医科大学内科学講  
座 消化器・肝臓内科助手  
平成13年 社会保険大宮総合病院診療部長  
平成16年 社会保険 新宿健診センター診  
療部長  
平成18年 東社協フィオーレ健診センター  
所長  
平成22年 ころの内科クリニック 開設

### Q. ころの内科クリニックの概要について 教えてください。

ころの内科クリニックは今年4月に開院しました。診療科は内科、消化器内科、小児科になります。院内の設備は電子カルテシステム(日立メディカルコンピュータ社製)、超音波診断装置(日立メディコ社製)、X線診断装置(日立メディコ社製)、内視鏡検査器(オリンパスメディカルシステムズ社製)、心電計(スズケン社製)があります。

### Q. 電子カルテ導入のきっかけについて 教えてください。

開業するにあたってできるだけペーパーレスでシステムを組みたいと考え、画像と電子カルテの連携を考えていました。その時に電子カルテHi-SEEDを知り、様々な医療機器と連携ができるし、画像を取り込むことも可能ということで見せていただいて、使い勝手もとてもよかったですので導入を決めました。開業以前に勤めていた色々な病院でも電子カルテを導

入して、様々なメーカーの電子カルテを使用する機会がありました。それらの使用経験の中で私にとって現在の電子カルテが一番違和感がなく、使いやすかったというのも理由の一つです。

### Q. 電子カルテの使い勝手はいかがですか？

オーダーをかけるとX線診断装置は自動的に認知してくれていつでも撮影準備に入れますし、超音波や内視鏡などは番号だけを入力すれば自動的に電子カルテの番号から名前を読み取ってくれます。医師の方で特に操作が必要なくてとても楽ですし、何より患者様をお待たせする必要がないという部分がいいと思います。それから多くの情報を一つの画面上にまとめて表示してくれているので、とても見やすく使いやすいですね。例えばそこに過去のカルテも出ますから一目で過去の履歴もチェックができますし、さらにチェックリストも出ているので、採血をいつ行ったかなどでもすぐに見られる

のでオーダーが出しやすいです。この表示画面自体は紙カルテに比較的近い画面展開で、記入がともしやすく、タッチパネルになっているのでペンでも簡単に入力できますし、マウスでもクリックすれば文字や所見をそのまま取り込んでもらえるのでとても便利です。チェックやオーダーをきちんと迅速にしてくれるのでチェック漏れやオーダーの出し忘れなどは確実に減りました。とにかく正確ですから、その点において紙カルテと比べてレベルは上がっていると思いますし、使い勝手もいいと思います。紙のカルテと比較すると、メリットとしては間違いなくペーパーレス、フィルムレスが挙げられます。書類やフィルム、資料の保管の必要がなくなり、場所を取らなくなったという利点が大きいです。当院でも倉庫は1部屋しか作っておらず、小さな棚だけで済んでいます。その分他の目的にスペースを取ることができました。

#### Q. 電子カルテの便利な機能についてお聞かせください。

レセプトの機能がとにかく便利です。算定のチェックや警告、間違っていた場合に算定できません、算定もれがありますといったようなお知らせがすぐに出るので、会計は特に問題がなく、すぐ修正することも可能なので大きな間違いや勘違いは起きません。更にカルテ自体が使いやすい構造になっているので、院内の事務の方は今まで全く電子カルテを触ったことがなく経験ゼロの状態で習得を開始してもらいましたが、一週間程度でほぼ対応できるようになりました。そういった意味で事務系の職員にとっても電子カルテは便利なものなのだと思います。

#### Q. 電子カルテ導入に際して、職員の皆さんに研修などは行いましたか？

電子カルテを導入した際に事務の職員の研修の為に、メーカーの方に来ていただき最初の1週間はずきつきりで見えていた

できました。後は後ろで見えてもらい、不明点があれば確認するという形でしばらくサポートしていただきました。電子カルテが使いやすかったおかげで大きな混乱もなく、かなり早く習得でき使いこなせるようになりましたし、ミスは少ないと思います。

#### Q. 電子カルテと医療機器の連携はいかがでしょう？

トラブルは絶対に避けなかったのも、機器はなるべく同一のメーカーで統一しました。多くのメーカーの機器を同時に使ってしまうと画像を取り込んだ際にフリーズしたり、読み取れなかったり、とにかく時間がかかってしまうことがありました。連携を考えてある程度統一したおかげでシステム障害には悩まされませんし、画像も素早く取り込めます。現在当院で電子カルテと連携している装置はX線診断装置、超音波診断装置、内視鏡検査器ですが、どの装置も連携面で問題はありませ

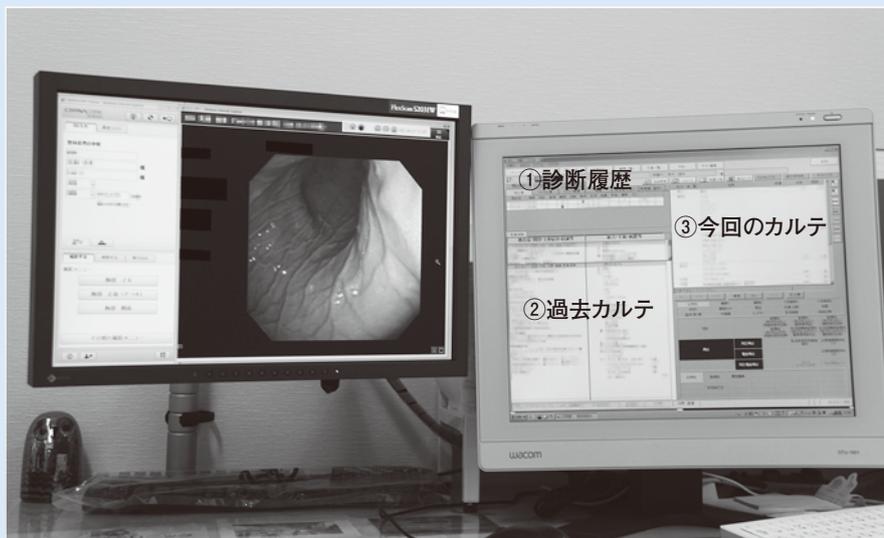
#### Q. 各システムのサポート体制についてお聞かせください。

電子カルテでは開院以来トラブルというトラブルはまだないのですが、後日訂正の必要があった時、後になって書き直しができなかったのをメーカーに連絡した際には遠隔操作で迅速に対応していただくなど、とにかくサポートがしっかりしていてとても安心しています。

他には使用しているデジタルX線診断システムの調子がおかしくなった時があり、バックアップできませんという警告が出てきたので電話でメーカーに相談したらその日のうちに来て部品交換していただき、すぐに動くようになりました。

#### Q. 今後の展望についてお聞かせください。

一言で言えば“プライマリ・ケア”でしょうか。患者さんに集まっていた



左 「C@RNACORE Station」(富士フィルムメディカル)  
右 「Hi-SEED」(日立メディカルコンピュータ)

#### 電子カルテの構成画面

- ① 投薬や検体検査、画像診断などの診療項目は時系列で配置。
- ② 過去のカルテは固定表示の為、作業中に隠れてしまう事はない。
- ③ 背景色やパネルサイズなど変更可能項目が多く、高い編集機能を持っているので、自分にあったパネルを作成して作業効率を上げることも可能。

当院が総合的な入口となって必要な方には当院や他施設で治療を受けていただき、元気になったらまた経過をここで一緒に見ていけるような施設になっていければいいと思っています。

私が研修を積んだ慈恵医大は、病気だ

けを「診る」のではなく、人を「診る」という方針でした。だから私も腹痛や頭痛といった症状だけを診るのではなく、総合的に診療したいと思っています。例えるのであれば誰でも安心して来ていただけるような、昔の町のお医者さんのような

存在になれることを今後目指していきたいですね。

**Q. 今後電子カルテに求める機能としては、どのようなものがありますか。**

現在も特に問題なく使用していますが、

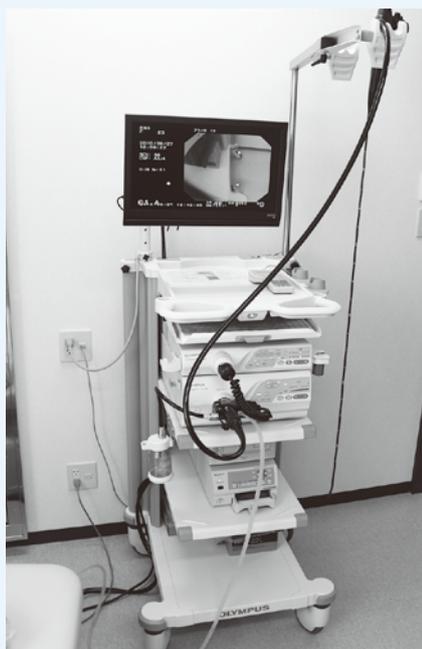
## 日々の診療を支える 医療機器群



「CLINIX II」(日立メディコ)



「HVISION Avius」(日立メディコ)



「LUCERA」(オリンパスメディカルシステムズ)



「FCR PRIMA」(富士フイルムメディカル)



「Cardico303」(スズケン)

電子カルテが画像のデータを読み取って電子カルテ上に貼り付けられたり、加工できるようになるなど電子カルテ上で作業ができるようになれば、より理想の電子カルテに近づくと考えます。

将来的に画像の画面と電子カルテの画面を一つにして説明しやすく、見やすい記録として残せるようになってくれればいいと思っています。

**Q. 今後ペーパーレス、フィルムレスシステムを検討しているクリニックや、ペーパーレス、フィルムレスで開院される施設へのアドバイス、メッセージをお願いします。**

まずはクリニックを立ち上げる際に、どういった医療機器を必要としているのか、そろえたいのかを具体的に上げるこ

とが大事だと思います。更に、将来的にこういった診療をやりたい、そのためにはこういう機器を入れたいという希望が出てくると思うので、それらの希望の医療機器を入れたいのであれば、システムの連携などに問題がないのかをチェックすることがとても大事です。もし医療機器がいないのであれば電子カルテのみということになりますので、使いやすいもの、違和感のないものを導入していただければいいと思いますが、医療機器の需要は科によって違いますから、必要となることは様々な場面であると思います。そうなった場合は予算やスペースなどを参考に、無理をしないで自分に合ったものを選んで組んでいくといいと思います。

それらのことに気をつければオーダーのスピードも上がりますし、スムーズに

進めば画像などの検査結果をすぐにお見せすることができます。患者様が検査を終えて、着替えて戻られたら既に画像が出ていることは効率面でもサービス面においてもとても大事なことだと思います。

最後に、開業して新しく電子カルテや医療機器などの導入を考えていらっしゃる方は、院内の内装構造を決める際に特に配線に注意していただくといいと思います。開院の段階では多くの配線を必要としない場合でも、後に多くの機器が必要となってくる場合もあるでしょう。その時に配線が効率よくつなげられるように、業者さんとの打ち合わせの際にはしっかりとその旨を相談することによって将来的にもスペースをかなり有効活用できるようになると思います。

## 導入へのアドバイス

1. 多くの医療機器が必要な場合、システム同士の連携をチェックする
2. 開業、導入の際には機器の配置、配線を考えて院内の構造を考える
3. 予算以上のものは望まない